



特集記事

「ひとりひとりのモチベーションを高め合えるチームのあり方」
株式会社ブリリアント・フューチャー・コンサルティング 代表取締役石原孝尚

「パーマの歴史」

日本パーマメントウェーブ液工業組合 副理事長 間仲 博
理事 小林 均司

巻 頭 言

第58回総会報告

特 集 記 事 (ひとりひとりのモチベーションを高め合えるチームのあり方)

特 集 記 事 (パーマの歴史)

技術委員会報告

M G K 便 り

事務局 だより

副理事長 武田 靖史

理 事 齋藤 勝

理 事 三口 雅司

技術委員 緑川 朋子

技術委員長 田島 洋一

JPWIA

日本パーマメントウェーブ液工業組合



巻頭言

日本パーマネットウェーブ液工業組合

副理事長 武田靖史

今年も早いもので、後半に差し掛かってきました。

2020年初頭からの新型コロナウイルスの影響により社会経済は大きな打撃を受け、人の考えや行動など生活様式も随分と変わりました。5類に変更後は日を追うごとに制限が緩和され、2019年以前の普通の生活に戻りつつあります。そして旅行やビジネスなどによる国内外の移動も増え、以前のような活気が戻ってきています。そのような中、ウクライナ情勢については依然として明るい兆しは見えておりませんが、早期に解決し平穏な社会に戻ることを祈るばかりです。

近年、地球レベルの環境、人、社会などESGに関連する課題は重要性を増しており、その取り組み内容や目標など具体的な施策が、企業にも求められるようになってきました。

一方、直近の問題としては、石油・エネルギーの高騰、原材料価格の上昇、為替の影響などが挙げられます。これらは業界問わず製造業にとっては大きな問題であり、乗り越えていく必要があります。

美容業界は、新型コロナウイルスの影響による消費の低迷により、2020年度は打撃を受けましたが、翌年には回復の兆しが見え、最近ではほぼコロナ前の水準まで戻っているように思われます。

パーマ剤におきましては、昨年当組合のパーマ出荷統計調査で、総出荷額は前年と比較して106.4%と増加し、一昨年も107%と増加傾向にありましたので、2年連続の伸長です。また、今年の第2四半期までは前年同期比で106.5%と増加しており、今年も期待されます。ストレート剤の伸び、男性のパーマスタイルが増えているのが大きな要因だと考えられています。パーマ剤の数字は1993年のソバージュヘア全盛期がピークで、それ以降はジリジリと下降線を辿ってきましたが、この状況は大変喜ばしいことです。

第58回通常総会が6月15日にハイアットリージェンシー東京で開催され、第1号議案～第5号議案（令和4年度の事業報告、決算報告及び監査報告、令和5年度事業計画、予算案、役員交代の件）について、満場一致で承認されました。その後、石原孝尚氏より「ひとりひとりのモチベーションを高め合えるチームの在り方」をテーマとする講演があり、大変興味深く有意義な内容でした。

一昨年6月に発出された「パーマネット・ウェーブ用剤製造販売承認基準」の改正に加え、一昨年9月には当局の通知をもって、添加物リスト、分離申請モックアップ、英訳などの承認基準改正関連事項が発出されております。この改正に対して、当組合では薬事部会にて申請要領「第8版」の執筆を行ない、本年3月31日を発行日とし会員、行政、関連団体への配布を行ないました。

昨年の10月にシステアミン塩酸塩が医薬品の有効成分として一般的名称に掲載されました。このことは、当該成分を配合した医薬品が申請され、承認された場合には、化粧品への配合ができなくなることを意味します。これは美容業界においての重要課題と位置づけ、専門委員会を発足し、厚生労働省審査管理課と意見交換を繰り返しながら対応策を検討し、ポジティブリストへの収載のための要請書を提出しております。6月には、厚生労働省、PMDA、当組合の三者会談が行われ、当該成分を続けて化粧品に配合できるように鋭意検討をしております。

安全性情報におきましては、米国で子宮がんとストレート剤の関連が論文報告され、ネットニュースなどでも報じられました。報告内容を精査した結果、国内で流通している縮毛矯正剤は安全性において問題ないと判断しました。スタンバイコメントを作成し、事務局に問い合わせがあった時など必要に応じて提供することとしています。

最後に、パーマ剤の出荷量は、ここにきてようやくプラスに転じました。このプラスを継続させパーマの明るい未来を創造するために、会員の皆様と共にパーマを盛り上げ、美容業界の発展に向けて、頑張っていきたいと思っております。